

II 調査結果の要約

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

「5年未満」(31.5%)が3割強と最も高く、これに「5年以上10年未満」(20.2%)を合わせた『短期居住者』(51.7%)が5割強となっている。「10年以上20年未満」(20.3%)と「20年以上30年未満」(7.4%)を合わせた『中期居住者』(27.7%)は2割台半ばを超えている。「30年以上」(10.9%)と「生まれてからずっと」(8.1%)を合わせた『長期居住者』(19.0%)は2割弱となっている。

(2) 定住意向

「当分はここに住むつもり」(52.8%)が5割強と最も高く、これに「永住するつもり」(28.4%)を合わせた『定住意向』(81.2%)は8割強となっている。一方、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.5%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(2.5%)を合わせた『転出意向』(7.0%)は1割未満となっている。

(2-1) 定住意向の理由

定住意向で「永住するつもり」か「当分はここに住むつもり」とお答えの方に聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(84.7%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで、「千代田区が好きだから」(46.3%)、「医療や福祉などの質が高いから」(41.2%)、「勤務先に近いから」(41.2%)が4割台となっている。

(2-2) 転出意向の理由

定住意向で「近いうちに区外に転出するつもり」か「1年以内に区外に転出するつもり」とお答えの方に聞いたところ、「転勤などの仕事の都合」(37.5%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(26.4%)、「もっと広い住宅に住みたい」(23.6%)が2割台となっている。

2. 居住環境評価

(1) 周辺の生活環境評価

「良い」が最も高い項目は、「交通の便」(91.1%)で9割強となっている。「悪い」が最も高い項目は「騒音・振動」(12.0%)で1割強となっている。

(2) 周辺の居住環境の満足度

「満足している」(56.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、これに「大変満足している」(20.7%)を合わせた『満足』(77.1%)は7割台半ばを超えている。「不満である」(4.2%)と「大変不満である」(0.6%)を合わせた『不満』(4.8%)は1割未満となっている。

(2-1) 「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

“景観・まちなみ”(0.47)・“安全・安心なまち”(0.42)・“大気汚染”(0.41)の3項目は相関係数(r)が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。周辺の生活環境の中でも、特にこれらの評価が向上することが、居住環境の満足度向上に影響すると考えられる。

3. 区の施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

「防災対策」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「環境対策」(40.3%)、「まちづくりの推進」(36.1%)となっている。

4. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”(53.9%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“環境対策”(33.8%)が3割台半ば近くと高くなっている。

「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”(91.4%)が9割強と最も高くなっている。一方、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“商工・観光・消費生活”(16.9%)が1割台半ばを超えて高くなっている。

5. 区の施設への要望

(1) 整備・充実すべき施設

「公園・児童遊園・広場」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「スポーツ施設(体育館・プールなど)」(38.5%)、「高齢者福祉施設(特養ホーム、老人保健施設、在宅サービスセンター、高齢者センターなど)」(27.5%)となっている。

6. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

「区のホームページ」(34.9%)が3割台半ば近くと最も高く、「新聞折り込みによる『広報千代田』」(32.8%)の割合を上回った。「郵送による『広報千代田』」(21.8%)は2割強となっている。

(2) 広報千代田の閲読の有無

「読んでいる」(63.8%)が6割台半ば近くとなり、令和2年(59.0%)から4.8ポイント増加した。

(2-1) 広報千代田の閲読状況

広報千代田の閲読の有無で「読んでいる」とお答えの方に聞いたところ、「必要・関心のあるところだけ読む」(56.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「すべてのページに目を通す」(33.7%)、「写真や見出しを見る程度」(9.9%)となっている。

(2-2) 広報千代田を読まない理由

広報千代田の閲読の有無で「読んでいない」とお答えの方に聞いたところ、「入手しにくいから」(33.5%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで、「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(31.8%)、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(23.4%)となっている。

(3) 自宅での新聞購読の有無

「自宅で新聞を購読していない」(63.6%)が6割台半ば近くと最も高く、令和2年(63.0%)から0.6ポイント増加している。

7. 町会・ボランティア

(1) 地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況

「参加したことは無いが、関心はある」(36.9%)が3割台半ばを超えて最も高く、これに「参加したことが無く、あまり関心も無い」(36.4%)を合わせた『参加したことは無い』(73.3%)が7割台半ば近くとなっている。一方、「よく参加している」(6.2%)と「何回か参加したことがある」(17.9%)を合わせた『参加したことがある』(24.1%)は2割台半ば近くとなっている。

(2) 町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野

「地域コミュニティの形成」(41.1%)が4割強と最も高く、次いで、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」(30.4%)、「地域住民と町会との交流促進」(28.8%)、「NPO・ボランティア等との連携・協働の推進」(25.5%)となっている。

8. かかりつけ医

(1) かかりつけ医の有無

「はい」(いる) (52.5%)が5割強、一方「いいえ」(いない) (46.7%)は4割台半ばを超えている。

(1-1) かかりつけ医の医療機関

かかりつけ医の有無で「はい」(いる)とお答えの方に聞いたところ、「診療所」(71.6%)が7割強、「病院」(27.5%)は2割台半ばを超えている。

(2) かかりつけ歯科医の有無

「はい」(いる) (69.5%)が7割弱、「いいえ」(いない) (29.7%)は3割弱となっている。

9. 第二次健康千代田21の成果指標

(1) 地域の人との関わり

「あいさつをする人がいる」(38.2%)が4割近くと最も高く、次いで、「つきあいはない」(30.3%)、「立ち話をする人がいる」(17.5%)、「相談しあえる人がいる」(13.2%)となっている。

(2) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の認知度

「知らなかった」(57.7%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「知っていた」(25.0%)、「内容まで知らなかったが、言葉は聞いたことがある」(17.0%)となっている。

10. 自殺対策

(1) 千代田区自殺対策計画の認知度

「知らないが関心がある」(74.8%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで、「知らなく関心がない」(20.6%)、「知っているが関心がない」(2.2%)、「知っていて意識が高まった」(1.9%)となっている。

(2) 悩みを相談できる人の有無

「いる」(86.9%)が8割台半ばを超え、「いない」(12.8%)は1割強となっている。

(2-1) 悩みを相談する相手

悩みを相談できる人の有無で「いる」とお答えの方に聞いたところ、「家族や親族」(86.7%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「友人や同僚」(67.7%)が6割台半ばを超えている。

(2-2) 相談内容

悩みを相談できる人の有無で「いる」とお答えの方に聞いたところ、「病気・健康の問題(自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等)」(47.7%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「勤務関係の問題(仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)」(45.8%)、「子育ての問題」(26.1%)、「家庭の問題(家族関係の不和)」(25.5%)となっている。

(3) 悩みを相談する手段

「対面相談(訪問相談を含む)」(73.3%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで、「電話相談」(71.3%)、「インターネットを利用して解決法を検索」(55.4%)となっている。

(4) 自殺を考えたことの有無

「考えたことがない」(68.8%)が7割近くと最も高く、次いで、「考えたことがある」(20.2%)、「答えたくない」(9.4%)となっている。

11. 区内公衆浴場等の利用調査

(1) 区内公衆浴場等の利用状況

「利用したことがない」(70.8%)が約7割、「利用したことがある」(28.2%)は3割近くとなっている。

(1-1) 区内公衆浴場等の利用頻度

区内公衆浴場等の利用状況で「利用したことがある」とお答えの方に聞いたところ、「年1回も行かない」(32.9%)が3割強と最も高く、次いで、「年1回程度」(16.8%)、「年3~4回程度」(12.4%)となっている。「ほぼ毎日」(0.0%)と「週3~4回」(1.4%)、「週1~2回」(8.6%)を合わせた『週1回以上』(10.0%)は1割となっている。「月2回程度」(5.5%)と「月1回程度」(5.8%)を合わせた『月数回程度』(11.3%)は1割強となっている。「2か月に1回程度」(3.8%)と「年3~4回程度」(12.4%)、「半年に1回程度」(10.7%)、「年1回程度」(16.8%)を合わせた『年に数回』(43.7%)は4割台半ばを超えている。

(1-2) 利用する区内公衆浴場等

区内公衆浴場等の利用状況で「利用したことがある」とお答えの方に聞いたところ、「RAKUSPA1010(淡路町施設)」(51.2%)が5割強と最も高く、次いで、「梅の湯(区内)」(24.4%)が2割台半ば近くとなっている。

(2) 隣接区での公衆浴場の利用状況

「利用したことがない」(74.5%)が7割台半ば近く、「利用したことがある」(22.4%)は2割強となっている。

(2-1) 利用した公衆浴場の所在地

隣接区での公衆浴場の利用状況で「利用したことがある」とお答えの方に聞いたところ、「新宿区」(35.1%)が3割台半ばと最も高く、次いで、「文京区」(32.9%)、「台東区」(30.7%)となっている。

(3) 自宅の風呂の有無

「ある」(97.8%)が9割台半ばを超えている。

12. 男女平等、人権、国際交流

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

「あまり感じない」(36.5%)が3割台半ばを超えて最も高く、これに「感じない」(17.9%)を合わせた『感じない』(54.4%)は5割台半ば近くとなっている。一方、「感じる」(15.5%)と「ときどき感じる」(29.2%)を合わせた『感じる』(44.7%)は4割台半ば近くとなっている。

(2) 人権が尊重されている社会だと思うか

「どちらかというと思う」(51.1%)が5割強と最も高く、これに「思う」(27.9%)を合わせた『思う』(79.0%)は8割弱となっている。一方、「あまり思わない」(15.3%)と「思わない」(4.4%)を合わせた『思わない』(19.7%)は2割弱となっている。

(3) 最も関心のある人権問題

「女性」(15.2%)が1割台半ばと最も高く、次いで、「インターネットによる人権侵害」(13.9%)、「子ども」(13.5%)となっている。

(4) LGBTsについて正しく理解したいと思うか

「思う」(42.9%)が4割強と最も高く、これに「どちらかというと思う」(33.9%)を合わせた『思う』(76.8%)は7割台半ばを超えている。一方、「あまり思わない」(15.6%)と「思わない」(6.1%)を合わせた『思わない』(21.7%)は2割強となっている。

(5) 同性のパートナーの権利について

同性のパートナーにも異性のパートナーと同等の権利が認められるべきだと思うか聞いたところ、「思う」(47.7%)が4割台半ばを超えて最も高く、これに「どちらかというと思う」(30.8%)を合わせた『思う』(78.5%)は8割近くとなっている。一方、「あまり思わない」(13.4%)と「思わない」(6.1%)を合わせた『思わない』(19.5%)は2割弱となっている。

(6) 平和事業への参加の有無

「参加したことはない(知らなかった)が、今後は参加してみたい」(43.7%)が4割台半ば近くと最も高く、これに「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」(41.1%)を合わせた『参加したことがない』(84.8%)は8割台半ば近くとなっている。一方、「参加したことがあり、今後も参加したい」(3.5%)と「参加したことはあるが、今後は参加したくない」(0.9%)を合わせた『参加したことがある』(4.4%)は1割未満となっている。

(6-1) 参加したことがある平和事業

平和事業への参加の有無で「参加したことがあり、今後も参加したい」か「参加したことはあるが、今後は参加したくない」とお答えの方に聞いたところ、「戦没者追悼式」(53.3%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで、「平和イベント(平和啓発展示または映画上映会)」(28.9%)が3割近くとなっている。

(7) 国際交流や平和関連の事業への参加の有無

「ない」(88.2%)が9割近く、「ある」(9.9%)は1割未満となっている。

(8) 区在住の外国人との交流意向

「機会があれば交流したい」(53.1%)が5割台半ば近くと最も高く、これに「積極的に交流したい」(9.2%)を合わせた『交流したい』(62.3%)は6割強となっている。一方、「あまり交流したくない」(6.9%)と「交流したくない」(3.1%)を合わせた『交流したくない』(10.0%)は1割となっている。

(9) いじめ等を受けた経験の有無

「ない」(52.8%)が5割強、「ある」(45.8%)は4割台半ばとなっている。

(10) 知っているいじめ等の相談窓口

「いじめ・悩み相談ホットライン」(28.0%)が3割近くと最も高く、次いで、「区民相談室」(17.0%)となっている。一方、「知らない」(49.0%)が5割弱となっている。

13. スポーツ実施率

(1) 運動・スポーツを行う頻度

「30分以上の運動を週2回以上」(30.9%)が約3割と最も高く、これに「週1回程度」(19.2%)、「週2回以上」(13.2%)を合わせた『週1回以上』(63.3%)は6割台半ば近くとなっている。

14. 区内の身近な緑について

(1) 好きな緑豊かな空間

「ある」(71.8%)が7割強、「ない」(27.7%)は2割台半ばを超えている。

(1-1) どのような空間か

好きな緑豊かな空間が「ある」とお答えの方に聞いたところ、「公園」(76.8%)が7割台半ばを超えて最も高く、「河川・濠」(41.0%)は4割強となっている。

(1-2) 自宅からの距離

好きな緑豊かな空間が「ある」とお答えの方に聞いたところ、「1km以内」(29.2%)が3割弱と最も高く、次いで、「500m以内」(24.0%)、「100m以内」(15.9%)となっている。「100m以内」(15.9%)と「300m以内」(15.5%)と「500m以内」(24.0%)を合わせた『500m以内』(55.4%)は5割台半ばとなっている。

(1-3) 利用頻度

好きな緑豊かな空間が「ある」とお答えの方に聞いたところ、「月に1回以下」(32.1%)が3割強と最も高く、次いで、「月に2・3回程度」(25.1%)となっている。「ほぼ毎日」(12.0%)と「2～3日に1回程度」(9.3%)、「週に1・2回程度」(21.1%)を合わせた『週1回以上』(42.4%)は4割強となっている。

15. 区内の水辺について

(1) 区内の水辺の利用状況

「ない」(53.4%)が5割台半ば近く、「ある」(46.2%)は4割台半ばを超えている。

(2) 区内の水辺環境の満足度

「どちらでもない」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「満足していない」(40.5%)、「満足している」(16.5%)となっている。

(2-1) 満足していない理由

区内の水辺環境の満足度で「満足していない」とお答えの方に聞いたところ、「水質が汚い」(79.2%)が8割弱と最も高く、次いで、「臭いが気になる」(58.9%)は6割近くとなっている。

(3) 水辺でしたい活動

「散歩」(85.9%)が8割台半ばと最も高く、次いで、「飲食(カフェやレストラン)」(47.4%)、「自然観察」(41.8%)となっている。

16. エリアマネジメントについて

(1) エリアマネジメント活動の認知度

「知らない」(91.7%)が9割強、「知っている」(7.9%)は1割未満となっている。

(1-1) エリアマネジメント活動への参加状況

エリアマネジメント活動の認知度で「知っている」とお答えの方に聞いたところ、「ない」(72.0%)が7割強、「ある」(25.6%)は2割台半ばとなっている。

(1-2) エリアマネジメント活動へ参加したことがない理由

エリアマネジメント活動への参加状況で「ない」とお答えの方に聞いたところ、「どんな活動があるか分からない」(44.1%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「時間がない」(42.4%)、「参加しにくい」(33.9%)となっている。

(2) 行きたい(参加したい)エリアマネジメント活動

「地域のイベント」(43.4%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「地域の調査・研究」(31.1%)、「同じ地域の人との交流」(28.8%)となっている。

(3) エリアマネジメント活動への参加・活動に必要な支援

「仕事や学業との時間の都合がつけば」(53.0%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで、「イベントの共催・補助」(25.6%)、「金銭的支援」(21.4%)となっている。

17. まちづくりにおける合意形成の方法について

(1) 区民や事業者等の声を聴く手法

「アンケート」(65.9%)が6割台半ばと最も高く、次いで、「説明会」(33.5%)、「オープンハウス」(30.0%)、「ワークショップ」(29.9%)となっている。

(2) 区民や事業者等で共通認識を築くための支援

「アンケートの実施」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「資料の提供」(43.6%)、「講習会・セミナー」(43.0%)となっている。

18. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知状況

「知っている」(76.2%)が7割台半ばを超え、「知らない」(22.9%)は2割強となっている。

(2) 震災時に転倒のおそれのある家具などへの安全対策

「一部の家具などにしている」(61.1%)が6割強と最も高く、これに「すべての家具などにしている」(12.9%)を合わせた『安全対策をしている』(74.0%)は7割台半ば近くとなっている。一方、「まったくしていない」(25.1%)は2割台半ばとなっている。

(3) 洪水などの災害リスクの認知度

「知っている」(76.8%)が7割台半ばを超え、「知らない」(22.4%)は2割強となっている。

(4) 災害が起きた時の避難方法

「在宅避難」(60.8%)が約6割と最も高くなっている。次いで、「避難所へ避難」(24.8%)と「縁故避難(親類や知人宅への避難)」(3.7%)と「職場へ避難」(2.7%)、「その他」(0.8%)を合わせた『在宅以外への避難』(32.0%)は3割強となっている。

(5) 地震などの災害に備えて備蓄しているもの

「飲料水」(81.3%)が8割強と最も高く、次いで、「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品など)」(76.9%)、「懐中電灯」(70.6%)、「マスク」(64.6%)、「アルコール消毒液」(50.9%)となっている。

(5-1) 災害に備えた飲料水の備蓄状況

地震などの災害に備えて備蓄しているもので「飲料水」とお答えの方に聞いたところ、「3日分～6日分」(44.2%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「1日分～2日分」(40.3%)、「7日以上」(14.9%)となっている。

(5-2) 災害に備えた食料品の備蓄状況

地震などの災害に備えて備蓄しているもので「食料品」とお答えの方に聞いたところ、「3日分～6日分」(49.0%)が5割弱と最も高く、次いで、「1日分～2日分」(40.6%)、「7日以上」(9.3%)となっている。

(5-3) 災害に備えた携帯トイレの備蓄状況

地震などの災害に備えて備蓄しているもので「携帯トイレ」とお答えの方に聞いたところ、「1日分～2日分」(55.0%)が5割台半ばと最も高く、次いで、「3日分～6日分」(34.0%)、「7日以上」(10.4%)となっている。